

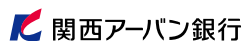
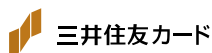
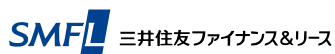


私たちの取り組みについて、ホームページで詳しくご紹介しています。

<http://www.smfg.co.jp/responsibility/>

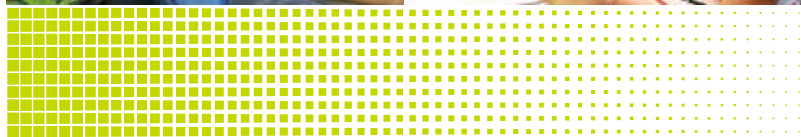
「SMFG」で検索 > トップページ > 企業の社会的責任(CSR)

グループ会社



# CSR コミュニケーションBOOK

## 未来へとつなぐ 私たちの取り組み



# 「未来への架け橋」として

# 私たちが取り組んでいけること

私たちは、いまま未来も、人々がいきいきと豊かにくらせる持続可能な社会の実現に向けて、金融サービスの提供を中心とした取り組みを進めてきました。しかし、格差の拡大、大規模な難民の発生や地球温暖化による気候変動など、現代社会は地球規模でのさまざまな課題に直面しています。これらの課題を解決し、より良い社会を次の世代に引き継ぐため、企業も事業を通じた更なる貢献を期待されています。

私たち金融機関に望まれることは、「未来への架け橋」として、課題解決に向けて従業員が主体的に取り組む、一層価値ある金融サービスを提供すること、そして、これまでもこれからも、皆さまとともに手を携え、成長していくことだと考えています。

私たちの取り組みの一部を、大切にしている3つのテーマ「環境」「次世代」「コミュニティ」に沿ってご紹介します。

## 環境

持続可能な  
分かち合う地球へ

お客さまの環境への取り組みを後押しする「SMBC環境配慮評価融資/私募債」、水素社会到来に先駆けた「移動式水素ステーションのファイナンスリース」、環境保全に取り組む団体を従業員が支援する「SMBCフレンド証券グリーン基金」、クレジットカードを環境保護に役立てる「地球にやさしいカード」など、金融サービスを通じた先導的な環境への取り組み事例をご紹介します。

p.3

成熟と成長が  
バランスする  
活力ある社会へ

## 次世代

第10回キッズデザイン賞を受賞した子ども向け環境情報誌「JUNIOR SAFE」、オープンイノベーションを推進する事業コンソーシアム「Incubation & Innovation Initiative」、日本フットサルリーグ会場での「親子向け金融セミナー」、地域の高校生に向けた「エコノミクス甲子園」の開催など、業態や地域に応じた次世代育成への取り組み事例をご紹介します。

p.7

## コミュニティ

誰もが参画できる  
特性ある健やかな  
地域へ

東北復興支援の経験を活かした「熊本地震」被災地でのボランティア活動、年代に応じた金融知識を提供する「金融経済教育セミナー」、人にやさしい社会の実現に向けた「ブラインドサッカー」支援、詐欺被害の未然防止に向けた「振り込め詐欺対策セミナー」など、安心・安全な社会を実現するための取り組み事例をご紹介します。

p.11

私たちが  
大切にしている

3つの  
テーマ



環

境

持続可能な  
分かち合う地球へ

須磨海岸での清掃活動

### SMFGの想い

多様な主体が地球環境保全に取り組む中、  
企業も環境に配慮した商品やサービス、技術の開発を進めています。  
私たちもまた、環境に役立つ金融サービスの提供を通じて  
お客さまとともに発展することが、  
「未来への架け橋」として、持続可能な分かち合う地球の実現に  
貢献できる道筋であると考えています。

私たちが大切に  
3つのテーマ：環境

## 取り組み

### 環境ビジネスの推進



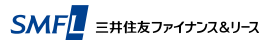
## 社会的課題への取り組みを支援する 環境評価型融資の開発

三井住友銀行は、社会的課題に取り組むお客さまに対するソリューションを開発しています。2007年に、環境マネジメントシステム認証を取得している中小企業向けに「SMBC-ECOローン」の取り扱いを開始、翌年には日本総合研究所がお客さまの環境配慮への取り組みを格付けし、それに応じて融資条件を設定する「SMBC環境配慮評価融資/私募債」を開発しました。以後、同様の仕組みを活用し、さまざまな評価型融資制度を拡充しています。なお、評価型融資の取り組み実績は1兆円を突破し、2016年3月末時点で約1兆6千億円となりました。



2016年1月 日経新聞朝刊に掲載の広告

### 環境ビジネスの推進



## 日本初となる移動式水素ステーションの ファイナンスリース

三井住友ファイナンス&リースは、豊田通商、岩谷産業および大陽日酸が共同出資・設立した合同会社日本移動式水素ステーションサービス向けに、移動式水素ステーションのリースを開始しました。リース対象は、同社による日本初の商業用移動式水素ステーションで、移動式水素ステーションのリース契約としても日本初の事例となります。クリーンエネルギーとして水素の実用化が進められている中で、水素エネルギーによる燃料電池自動車も発売されるなど、水素ステーションの普及が期待されています。



移動式水素ステーション

### NGO/NPOとの連携による 社会課題の解決



## 環境保全活動を支援する 「SMBCフレンド証券グリーン基金」の設置

SMBCフレンド証券は、2015年6月に「SMBCフレンド証券グリーン基金」を創設しました。これは、希望する役職員の給与から毎月一律100円を天引きする積立募金で、年に一度、「環境」に関連する分野で活動する団体などへの寄付を行っています。一人ひとりにとっては小さな支援ですが、多くの役職員が継続して行うことで大きな支援になります。2016年度は、東日本大震災の津波により被害を受けた海岸防災林を再植樹するプロジェクトを行っている団体に、寄付を実施しました。



2016年度の寄付贈呈の様子

### 環境ビジネスの推進



## クレジットカードを通じた環境への貢献 ～地球にやさしいカードの発行～

セディナは、「ごく普通に使うだけで、地球のために寄付できる」をコンセプトにした「地球にやさしいカード」を発行しています。地球環境保護をテーマにした14種類のカードがあり、カードのご利用金額の0.5%が当社から公益財団法人緑の地球防衛基金を通じ、テーマに沿った各保護・研究団体に寄付される仕組みになっています。また、寄付金がどのように役立てられたのかをカード会員さまが確認できるよう、ホームページで寄付先の団体の活動状況をお知らせしています。



地球にやさしいカード(地球温暖化を抑える)



# 次 世 代

**成熟と成長が  
バランスする  
活力ある社会へ**

こども銀行たんけん隊にて札勘体験

## SMFGの想い

持続可能な社会の発展には、次世代の担い手となる子どもたちの育成、新産業の創造、新興国などの健全な経済成長が不可欠です。そのため、次世代の成長を支える社会の知恵や技術、資産をしっかりと受け継ぎ、活かしていく必要があります。私たちは「未来への架け橋」としてネットワークを最大限に活かし、その仕組みを創出したいと考えています。

私たちが大切に  
3つのテーマ：次世代

## 取り組み

### 環境関連の社会貢献活動

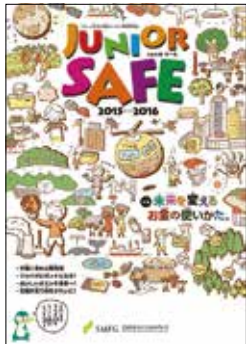


## 子ども向け環境情報誌 「JUNIOR SAFE」の創刊

三井住友フィナンシャルグループは、地球の未来を担う子どもたちにも、環境と金融のつながりや、企業の環境への取り組みを知ってもらいたいと考え、子どもを対象とした環境情報誌「JUNIOR SAFE」を創刊しました。2016年8月には、「未来を変えるお金の使いかた」をテーマにした創刊号が、第10回キッズデザイン賞※において、銀行では初となる「優秀賞消費者担当大臣賞」を受賞しました。

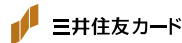
この「JUNIOR SAFE」は、三井住友銀行の店頭でお渡ししているほか、SMFGのホームページでもご覧いただけます。

※キッズデザイン賞(主催：特定非営利活動法人キッズデザイン協議会、後援：経済産業省、消費者庁)



環境情報誌「JUNIOR SAFE」創刊号

### 金融リテラシーの向上



## フリーグ試合会場でのCSRイベント 「親子向け金融セミナー」の開催

三井住友カードは、「日本フットサルリーグ」(フリーグ)の2016/2017シーズンの試合会場で、金融教育セミナーなどのCSRイベントを開催しています。このイベントは小学生の子どもたちとその保護者を対象とし、子どもにも分かりやすいように、寸劇を用いて「お金をバランス良く使うこと」や「計画的に使うこと」の大切さを伝えるプログラムを展開するとともに、フットサルイベントも開催しています。今後も、金融リテラシー向上と、

スポーツを通じた地域活性化の両面に貢献する活動を継続して行っています。



上手なお金の使い方を伝える寸劇

### 資産・事業の次世代に向けた承継サポート



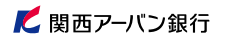
## 国内のオープンイノベーションを推進する 「Incubation & Innovation Initiative」の設立

日本総合研究所は三井住友銀行とともに、2016年に異業種連携の事業コンソーシアム「Incubation & Innovation Initiative」を発足しました。本コンソーシアムでは、日本の成長戦略の基盤となる先進性の高い技術やビジネスアイデアの事業化を支援していきます。さらに、イノベーションを阻害する要因を研究し、実態に即した法制度設計や規制改革などの政策提言を実施し、日本経済の活性化に貢献していきます。



オープンセッションの様子

### 金融リテラシーの向上



## 「全国高校生金融経済クイズ選手権 (エコノミクス甲子園)」滋賀大会の初開催

地域の高校生に金融経済の知識を楽しみながら学ぶ機会を提供するため、関西アーバン銀行は2015年12月、「全国高校生金融経済クイズ選手権(エコノミクス甲子園)」の滋賀大会を開催しました。滋賀県では初めての開催にもかかわらず、16チームが全国大会への切符をかけてクイズに挑戦し、白熱した活気あふれる大会となりました。2016年2月に開催された全国大会には、地方大会を勝ち抜いた44チームが参加し、新潟県代表の高校が優勝しました。



エコノミクス甲子園 滋賀大会



東北被災地での防潮林再生に向けて

## SMFGの想い

高齢者や障がいの方が安心して生活できる社会や、災害時に助け合い支え合える安全な街をつくるためには、国・地域に根ざし、その一員として取り組むことが重要です。私たちはグローバル金融グループが担うべき「未来への架け橋」の役割を認識し、事業展開地域のみならずその地の社会課題に取り組む人々と連携して、金融や教育など多様な分野で、従業員による主体的な社会貢献活動を継続したいと考えています。

誰もが参画できる  
特性ある健やかな  
地域へ

# 私たちが大切に 3つのテーマ：コミュニティ

## 取り組み

役員主体の地域に根ざした活動



### 熊本地震被災地での 従業員のボランティア活動

三井住友フィナンシャルグループは、2016年6月に熊本での1回目の被災地支援ボランティア活動を実施し、グループ各社の従業員計37名が参加しました。今回の活動では、東北復興支援でも連携している一般社団法人OPEN JAPANと協力し、熊本県南阿蘇村の倒壊家屋からの貴重品・家財の運び出し、ゴミの分別などを行いました。参加者は被害状況、復旧の遅れ、ボランティア不足を目にし、一層の企業の活動が必要だと想いを新たにしています。



熊本でのボランティア活動

引き続き、さまざまな形で熊本の被災地を応援していきます。

安心・安全な  
コミュニティ実現・発展への貢献



### 障がい者スポーツ 「ブラインドサッカー」の継続支援

SMBC日興証券は、「多様性の尊重」を経営理念の柱の一つとしていることに加え、障がい者と健常者、子どもからお年寄りまで皆がいきいきとくらしがける「人にやさしい社会」の実現に向けて会社をあげて取り組んでいます。その中で、ブラインドサッカーの支援を継続的に実施するため、日本ブラインドサッカー協会とパートナー契約を締結しました。同契約に基づき、視覚障がい児向けブラサカ・アカデ



ブラインドサッカー

ミー事業「ブラサカ・キッズトレーニング」の支援や、日本ブラインドサッカー協会が運営する各種大会へのボランティア派遣等を通じた包括的な支援を行っています。

金融リテラシーの向上



### 健全な個人向け金融市場の形成に向けた 金融経済教育セミナーの開催

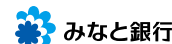
SMBCコンシューマーファイナンスは、未来を担う学生や地域の方々がお金に関する正しい知識を習得するとともに適切な判断ができるよう、全国18カ所のお客様サービスプラザの従業員が中心となって、「家計管理」「ローン・クレジット」「金融トラブル」などを主な内容とした金融経済教育セミナーを開催しています。地域コミュニティや教育機関の皆さまのニーズにお応えしていく中で、年々多くの方々からご依頼をいただき、2011年の活動スタート以



お客様サービスプラザによるセミナー

来5年間で1万回以上開催し、51万名を超える方にご参加いただきました。

リスク管理、情報管理の徹底



### 「振り込め詐欺」被害 未然防止のための取り組み

振り込め詐欺の手口は年々巧妙化しており、被害の未然防止には金融機関による声掛け・目配りが大切だと考えています。みなと銀行は、「振り込め詐欺」などの詐欺被害を未然に防止するため、兵庫県警と連携し、「店頭での啓発ビデオの放映」「振り込め詐欺対策セミナー」などを実施しています。同セミナーは、これまで31店で開催し、約430名の方にご参加いただきました。また、高齢者などが多額の



振り込め詐欺対策セミナー

現金を出金する場合には「預金小切手活用」をおすすめするなど、詐欺被害の未然防止に取り組んでいます。